

## 第 6 回宝塚市総合計画審議会 第 2 部会

日時：令和 2 年(2020 年)9 月 7 日(月) 18:30～20:30

場所：宝塚市立中央公民館 203、204 学習室

### 1 開 会

出席委員 ※敬称略、順不同

濱田（恵）委員、久委員、藤井（達）委員、藤本委員、飯室委員、温井委員、山村委員、  
今住委員、喜多河委員、久保委員、糸田委員、矢野委員、龍見委員

欠席委員の確認：なし

傍聴希望者の確認：1 名

部会長 ということですので始めたいと思います。よろしく申し上げます。それでは委員の出欠状況につきまして事務局から報告いただきたいと思います。よろしく申し上げます。

事務局 本日、欠席委員はおられません。龍見委員がリモートで参加させていただいておりますのでよろしくごお願いいたします。少し、ちょっと声が龍見委員、聞き取りにくいかもしれませんので、少し大きめに発言いただければありがたいと思います。よろしくごお願いいたします。それから本日も室長級職員がいておりまして、途中でまたちょっと入れ替わることもありますけども、よろしくごお願いいたします。以上です。

部会長 ありがとうございます。今日は龍見さんだけがリモートになっているので、こういうときなかなか振るのが難しいので、また随時発言していただいて、最後に一言何かいただけるとありがたいので、最後振らせていただくかもしれませんので、よろしく申し上げます。

それでは先週に引き続きまして、基本計画【各論】（素案）の続きの議論をこすっていただきたいと思います。前回と同じような要領でまずは担当の方からご説明いただいたあと意見交換をさせていただければというふうに思います。

では今日はまずはページで言いますと 47 ページの「環境保全」、それからその次の「循環型社会」、そして「都市美化・環境衛生」、この 3 つのところをひとくくりでお話をさせていただきたいと思いますので、まずは担当者のほうから説明いただければと思います。よろしく申し上げます。

## 2 議事

### 議題1 基本計画【各論】(素案)について

市職員 (資料説明)

部会長 ありがとうございます。それでは委員の皆さまから何かご質問、ご意見ございますでしょうか、いかがでしょうか。

委員 事前の意見聴取、意見書でちょっと書いたつもりだったんですけども、3番、「環境保全」のところで、環境省の COOL CHOICE っていう展開がありましたね。あれが非常に分かりやすい、学校現場でもいろんな教え方をなさっている取組もありまして、それがまったく、それがここには書かれていないっていうのか、なんて言うのか、見つからないのか、よく分かりませんけれども。

うちのエフエム宝塚では COOL CHOICE のキャンペーンをやってまして、結構ちゃんと反応もありますので、全世代的に、かなり賢い選択をしていると思うので、獲得はいくらでもあるような気がするんで、文言的になんか抵抗あるのかないのかよく分かりませんけれども、みんなに分かりやすい言葉でどこかになんらかの形で盛り込まれたほうがもっとコミュニティ、広がるんじゃないかなという感じですね。

市職員 その点については4点目で環境に対して関心や理解を持ってもらうためというような形で、COOL CHOICE っていう言葉はちょっと書いてはいないんですけども、そういったことでイベントとかそういうのを通じて進めていきたいなというふうには考えております。決して COOL CHOICE を省いているわけではないんですけども。その辺をご理解いただければありがたいと思います。以上です。

部会長 ちょっとそれに関連する話なんですけど、今日のご説明を聞いていると、非常にアピール力があるなと思ったんですね。で、文章を読んでも逆に別に宝塚じゃなくてもいいんじゃないのっていう普遍的なイメージになるんですね。それは3番も4番も5番もそうなんですけど、もう少し、例えばめざすまちの姿とか、あるいは施策、さらには現状と課題で触れていただいてもいいんですけど、もう一步、宝塚市らしさみたいなものが、宝塚の特徴っていうのを、今日はお2人のご説明なんかに随所にあったんですよ。宝塚はこうだから、宝塚はこういう特徴がある。

そういうものをもう少しいろんなところに随所に出していただいた記述のほうが、市民側から読んでいても、やはり伊丹とは違う、西宮とは違うっていうようなイメージが出せたのかなというふうに思うので、材料的にはいいんですけど、書きぶりでもう少し宝塚らしさ、あるいは宝塚の環境づくりとしてなんか PR したい文言というのがぴったりと入っておいたほうがいいのかというふうには思ったんですけども、その辺り工夫していただくとよりアピ

ール力が付いてくるんじゃないかなということのを思いました。

だから先ほど委員がおっしゃったような **COOL CHOICE** のほうがひょっとするとアピールするのであれば、そういうような言葉を使うとかというように、ちょっと言葉の選択だけなのかもしれないけれども、少しご検討いただいたほうがより分かりやすくなるんじゃないかなというように思いがあります。どうぞ。

委員

今の件に関して、**COOL CHOICE** に関しては、前回いただいた審議会からの質問、意見と対応っていう中で、前回論じたところは結構丁寧に説明があるんですけど、**COOL CHOICE** という用語をどこまで、使用するのがいいのではないですかという意見に対して、内容としては「**COOL CHOICE** を掲げ、省エネ意識を啓発し省エネを進めます」って書いてあって、なんで原案どおりなの。この意見をなんで取り上げないの、っていうのが書いてないんですよ。

だからそれは結構、これから以降、説明のところでもそういうところが出てくるんですね。前回説明したのはご主張の趣旨は含まれていますとか、同じことはこっちで言っていますのでここでは原案どおりにしますって採用しないっていう理由が書いてあるんですけど、ここではなんか、説明のほうが、行政の受け止め方も進めますから、進めますからっていうことで、それだけになっている。なんで原案どおりっていう理由がないのが今の論議になってしまうので、ちょっとこの作り方が丁寧さが欠けるなっていうのが今の1点、テーマ。

それと私の意見としては、このページでは、文章としてはこれでいいなど、特に変えろっていうのはないんですけど、施策の(2)の「多様な生物が存在する豊かな自然環境の保全」の中で、3つ目の丸の「特定外来生物に関する情報提供、適正な駆除を行います」と。ここら辺、私、意見を出したんだけど、私の意見についての返事がまったくここに記載されていないのね。

で、私が言ったのは「適正な駆除を行います」っていうのは、ちょっと話をなんで思ったのかというと、オオキンケイギクっていう特定外来生物、植物があります。これが駆除対象なんですけど、宝塚もこれは全国的に法律で育てても移動しても、売っても買ってもいけないんだよね。庭で育ててもいけないのね。

で、発生したらどうするかっていったら駆除するんですけど、ほかの資料は、いろんな市がありますけど、その原則は駄目だよって言うておいて、さらに個人が処理する場合には必ず乾燥してから燃やすごみで出してくださいとか、そうやって個人も気が付いたら庭の処理はしていいってなっているんですよ。宝塚はそういう手続きはなんにも書いてないんです。

それで私のところ、これは自治会で取り組んでるんですけど、最初に自治会で取り組んで、これ処理します、言ったら環境部は駄目だって言われて、環境

部から。動かしちゃ駄目なんだから。いやいや、じゃあどうするの。取りにきてくれるの。 って言ったら取りにこないわけですよ。いや、ほかの市ではこうしているよっていうことを言って、結局は公園河川課と話し合っ、袋に入れるから焼却処理はそっちで頼むねって言って、公園河川課がやってくれることになって、公園河川課がやってくれますよって環境部に言ったら、それならよろしいでしょうって言われて。

要するに僕が言いたいのは、「適正な駆除」ってというのは市に方針がないところ。これもう何年も前から言っているんですけど、そういう各論のところでは適正な駆除を行いますって一言書いてあるけど、行ってないんですよ。そういうのをここに書いてあることには反対しません、適正な駆除を行ってほしいので。これから下にある取組とか方針とか、そこがちょっと肉付けが甘いんじゃないか、きちんとしてほしい。ほかの市ではやっている。市民は自分の家にオオキンケイギクが生えてきたら触っちゃ駄目だっって言われて、じゃあ市役所が取りにやってやったら、それはできないって、じゃあどうするのって。法律の運用がおかしいというのと、それが1点です。

それからこの(2)です。アンダーラインが2つ、2カ所引いてますけど、これは1本線は委員の提案の部分でしたよね。これは誰が言ったのっていうのと、こっち側にこれについては説明がないんですね、まずここが。非常になんか意見が出てここに入れたのかっていうのもない。ちょっとそこら辺。この(2)ではその2点をちょっとご意見、質問として。

部会長 すぐ分かれば教えていただければと思いますけれども。資料の4の一部反映というところのどこかでしょうね。

市職員 すいません。まずオオキンケイギクの件なんですけれども、ここはちょっと私の認識が誤っているのかちょっと分かりませんが、確かに委員さん言われたとおりで、ホームページ等に何も記載していないのは間違いありません。われわれとしては「適正な駆除を行います」ってというのは市民の皆さんと一緒にやってオオキンケイギクの駆除はやっているのはやっておりますので進めてまいりたいという意味合いで書かせてもらっております、そこは。

で、「生物多様性の保全の意識の向上を図ります」の、その文言なんですけど、これは前にちょっといろいろ委員さんからの表現のところでも分かりにくい表現も多々あるというふうなことを聞いておりましたので、そこで変えさせていただいた形だと理解しております。

委員 私が提案したところの返事がいただけてないのは、「適切な駆除を行います」っていう、逆瀬川のところで1回、毎年やっているんですね。住民と一緒に。それは写真を撮ってホームページに出しているんですよ、市と住民がやっている。私のところも市と住民がやっているんですけど、私のところは裏技でやって

て向こうはホームページで出してる。取り扱いがちゃんとできてない。だから私が提案したのは「駆除体制を整える」というような言葉を入れてほしいと提案したんですけど。駆除を行いますって誰がするのってなるから。体制ができてない。そういう「駆除体制を整える」っていうのを追加する必要がありますって提案したけど、それについて触れられてない。

委員

いいですか。

部会長

はい、どうぞ。

委員

特定外来種については適正な駆除はできへんのですよ、現実問題として。で、今もオオキンケイギクばかり話題になってますけど、河川にはオオカワヂシャとかそんなとかいろいろいるし、もうそんなんまったくほったらかします。だけど例えばケシでもそうですよね。ケシでもそこら咲いとつても、なかなか駆除してもらえない。いわゆるやばいケシですね。名前ちょっと忘れちゃったけど。

それからこれ、ええ格好言い過ぎかなっていう気が僕するんですよ。じゃから、例えば、どうなんやろな、今おっしゃったように協働の形で駆除に努めますとか、そういうような形にしたほうが、僕は一緒に考えていこうぜっていう。特定外来種法という非常に大きな壁はあって、勝手に持たれたとかそんなんあるけれども、そこを運べるようになったっていうのが1つの、この5年ほどの成果ですよ。やったと思うんですけど、そこで一緒になってこれをなんとかしていこうという動きのほうの形に変えていくほうが、僕はベターじゃないかなと思うんですけどね。

部会長

また文章のところは考えていただきたいと思うんですけども、先ほどの委員のお話を聞いていると、情報提供の次に、例えば「協働の体制づくりなどを行い駆除を進めます」、ぐらいの話だったらなんとかなる。

委員

僕らも小学校3年生の子どもの環境教育のときに一番最初に大きく写真出して、これきれいなお花でしょうって言って、これ持って帰ったら捕まいますって言う。まず最初に、去年、おとしかな。小学校行ったときにぱっと校長室入ったら、校長室に飾ってあったんですよ。それで中学校行っても中学校にオオカワヂシャが溝にぶわーっと生えていると。それをまず知らないっていうことが当たり前のことなんですけど、それほど認知度が低い。

で、あまりにもオオキンケイギクなんてきれい過ぎますからね。だから育てたい。もともと観賞用にもやったり、のり面の保護にも持ってきたものなんですけども、それをなかなか駆除っていうのは本当に難しいと、正直言うと思うんですよ。何が悪いねんと。それで触ったらあかんっていうけどただそれがはびこり過ぎたらもうやっぱりどうしようもないっていうのはありますけど。それをやろうとしている人がいるんだったら、市と一緒に、いや、こ

れはあきませんよとか、協力しませんよ、あんたら勝手にやってくださいよっていうんじゃないで、なんらかの援助はしますよっていう形に持っていくというのが筋ちゃうかなと思うんですけどね。駆除はしないんだから、絶対に。

委員 オオキンケイギクほかにもいっぱいありますけどね。なんか宝塚市も結構、象徴的な、目立つからですかね。

委員 自然保護協会と、あの辺が一緒になって一生懸命やろうとしているから。

委員 これはほかの市見ても個人がやっても、個人で片付ける手順も書いてあるわけですよ、団体だけじゃなくて。市民がやってください。でない行政は人の家の庭まで手が届かないから。そういう仕組みが宝塚市にはなんでないんだらうって。だからそこら辺を。

委員 だから駆除しますって言うねやったら。

委員 先生におまとめいただいたような文言を入れていただければ、たぶん具体的な論議の中に、計画の中とかに生かしてもらえないかと思いますけど。

委員 逆に駆除せえであれば、駆除してくださいっていう話になってくると思うので。そんななんぼやっても無理ですわ。悪いけど、言うたら。

委員 でもうちで中山台ニュータウンで。

委員 きれいですね。

委員 ぼっと固まりがあって、それはもう早めにせないかんって自治会で取り組んだらなくなっていくですよ。山手台のほうにはいっぱいありますよ。あれは山手台だから、向こうの自治体の話で僕らは取組みませんけど。

委員 頑張ってそこもやってはる。

委員 やればなんとかなるんですよ。

部会長 その辺りまた文言を少し工夫していただければと思います。ほかいかがですか。

委員 「環境保全」の、環境、(4)の環境教育・学習の推進というところで、環境教育っていうのは本当に大事なことだと思うし、子どもたちにそういったこと、未来の宝塚を担う世代にそういったことを伝えていくっていうことはとても大事なことはないかなと私は思っています。で、よくあるのが、環境教育を推進しますと。で、市の環境フォーラムか何かに子どもが発表しますというような形で。

やってることについては子どもが環境教育にすすんで参加をしているというような形を取っているんですけども、でも実際は学校現場にどうやって下りてるかという、もう輪番で下りてくるんですよ。この年はどこの学校、みたいな感じ。になると、子どもの実態とかそのときの様子とかで、輪番で回ってくると非常にしんどいというか、環境教育をしないということだ

はなくて、やらなければいけないからだ。環境教育をしたいという人ももちろんいるけども、せねばならないからやるというような、かえって押し付けとかマイナスとか、いうことがあったりするので、環境教育推進するのであれば、ちょっと学校現場に合うような形とか、市でこうやるからこうしてくださいというような形ではなくて、お互いに学校の負担にならないとか、やりたいところが、取り組みたいところが取り組むというような形で負担にならないような推進の仕方をお願いしたいなと思います。

部会長 具体的にどう進めていっていただけるかというところのレベルだと思いますので、そこはまた次のステップかと思います。

委員 すいません、4の「循環型社会」のところなんですが、その施策を見ると、ごみの問題に終始しているような書きぶりが多いんですが、ここにも3Rと書いてありますように、例えば医療とか食品のリサイクルショップとかレストラン、例えばイベントとか、そういうようなことも、少なくとも循環型社会という形であれば、ごみの問題以外の問題もかなりあるのではないかと、いうところで宝塚というものを意識するとなれば、結構民度の高い、そういう人がいろんなそういうものに参加しているという。現にイベントもいろいろあると思う。そういうことも少し施策のところに書き入れたほうが、循環型社会のもうちょっと、意味合いが広いようなイメージとか言葉の重みがあると思いますので、そこら辺のところはちょっと気になるところなんですがいかがでしょうか。

市職員 この4番の「循環型社会」は特にごみを中心に書かせていただきました。3Rの中で今おっしゃっていただいたようなことを、この下の、分野別計画にはなるんですけども、一般廃棄物処理基本計画の中で、3Rだけではなくて、どうしてごみの減量化、啓発をしていくかの中には、食品ロスであるとか、お店で小盛りを作ってくださいとか持ち帰ってくださいとかっていう啓発もしていきたいと思いますというのは、ちょっと下の計画の中では具体的にそういうところも触れてやらせてはもらってますので、総計の中では、大きな3Rだけがぼんと出てくるような形にはなってるんですけども、そういう立て付けにはさせていただいているのかなというような思いではしています。

委員 金曜にもその議論がありましてね。総合計画に書いてないものは、分野のところに細かくあるんやったら、総合計画は本来なんなのかという問題があるので、せめて、少なくともリサイクルだったらリサイクルに差があるという言葉で、もうちょっとその辺の書きぶりがあるんじゃないかな。そうしないと、ちょっと循環型社会という現在の循環型社会という意味合いと、イコールごみというのはちょっと問題があるんじゃないかという視点なんです。

部会長 従来型っていうと怒られますけど、古紙の回収とか空き缶の回収とか、そう

というのがリサイクルっていうようなイメージでやってたんですけども、今はたぶん、特に若い方々っていうのは当たり前のようにリサイクルショップ利用されてますよね。いわゆるシェアですよね。というような感覚で、自分は循環型社会を意識しないけれど、実はやっている行動は循環型社会をされてるっていうことがどんどん増えてきてますよね。

そういうふうなあんまりリサイクルとかって言わずとも、何か当たり前の行動の中で循環型社会に持っていけるような、そんな仕組み、仕掛けっていうのがこれからどんどん必要じゃないでしょうかっていうご提案だと思っ

市職員

よく分かりました。代表的にはメルカリじゃないですけど、要らなくなったものをネット上に上げるとすぐに誰か買い付けるっていう形で、そういう社会がどんどんできつつあるっていうのも事実です。ただ、そうはいえ、なかなかわれわれリサイクルっていうものの中、ごみをやるとリサイクルしてるから使ってもいい、端的に言うと牛乳パックであるとかペットボトルが代表例やと僕は思ってるんですけど、リサイクルできるから作っていいんだ、では僕は駄目やと思ってるんです。そうではなくて使わない、ごみに出さない、そういうふうな、どっちかっていうと2Rですよ、のほうにほんまは重きを置くべきかなっていうふうになんかちょっと考えてまして。あんまりリサイクルを表に出すと、免罪符みたいな形でごみ、結果的にはあんまり減らないっていうような形があるのであんまり書いてないっていうところもあるんですけども。

部会長

実は今、東大阪の環境基本計画見直してる、私も入らせてもらってるんですけど、東大阪も2Rにしてるんです。3Rじゃなくて。

市職員

本当は2Rって書きたいぐらいだったんですけど。

部会長

そこら辺が、3Rじゃないよ、2Rだよっていうんだったらもう2Rにしてしまうとか、そういう思い切りみたいなものが必要だし、それから委員がおっしゃる話っていうのは、まだまだそこまで意識が高まっていない人たちに根付かせるためには、あんまりリサイクルとか環境とか言わないような形で、意識せずとも何か協力していただけるような体制づくりっていうのもあるんじゃないですかっていう話やと思うんですね。

それはやっぱり入り口としては非常に重要で、そこからより意識を高めてもらうような、そういう戦略みたいなものも必要かなと思いますし、それからいわゆるアップサイクルという言い方がありますよね。よりいいものをつくっていかう。1つ具体的に言うと、タイヤの廃チューブからかばん作ってるSEALっていう、もうブランドになってますよね。ああいうような形の、ちょっとおしゃれな環境配慮みたいなものも、もっともっとあったほうがいいし、それがたぶんおしゃれな宝塚ということにも関係していくんじゃないかなと

いうふうには、私も思うんですけどね。そこも宝塚らしい新たな仕組みづくりみたいなものでもっとアピールできる点があれば、文章としてもなんかアピールできないかなというふうに思いますけど。

委員

先ほどのご意見、私も賛成なんですけど、まちづくり基本条例で5つのまちづくりの基本理念をつくっていくっていう。その基本理念にのっとって総合計画を作るとなってるんですね。各分野ごとの計画については総合計画に則して策定するものとする。今ご提案になったような部分が、分野ごとの計画の中に入ってあって、かなりエリアとして重要なところであれば、なんか環境基本計画に入れる理由としても、総合計画に一文、総括的に大事なことだよって入っていることが重要であって、ここに入っていないのがなんで分野別計画の中でね、ごみだけでほかないのかっていったら、いや、ある。あるっていうんだったらここにも入れておいたほうが私はいいと思います。総合計画と分野別計画と、まちづくり基本条例の関係からしてもそのほうがすっきりすると私は思っていますけども。検討いただければ。

部会長

ちょっと語弊ある言い方かもしれませんが、特に施策の丸のところをさらっと書き過ぎてるんですよ。もう少し何かの説明であったり、目標みたいなものが修飾語とか修飾詞としてあったらアピールできる点もあるんじゃないでしょうかっていうことのご意見かと思います。ちょっと付け加えていただくか、文言変えていただくだけで、同じ内容以外でもかなり見栄えが違ってくるんじゃないかなっていう。

市職員

ちょっと書きぶりとかその辺をもうちょっと。ただの3Rだけじゃなくて、もうちょっと内容を少し入れたような形で。

部会長

何々などとか、何々のようなとか。ちょっとその辺りの説明文を入れていただくだけでもかなりイメージとしては。

市職員

分かりました。

部会長

ほかいかがでしょう。はい、どうぞ。

委員

また元に戻るんですけども、3番の「環境保全」のめざすまちの姿のところの後半、ちよぼ1の後半の「人の営みと自然がつながっている」というのがめざすまちの姿というふうに書いてあるんですけども、人の営みと自然がつながっているというようなイメージを持つような項目がまったくないような、僕は気がするんですけども。

それと関連してなんですけども、2番目の、現状と課題の2番目の「生物多様性の実態を把握するために基礎調査を実施していますが、多くの時間が必要となります」と書いてあるんですけど、これ、10年後を見据えたものであるのにこういうことを言っていていいのかどうかというのが。現実はそうだと思うんです。だと思っんです。それが1つ。

それからそれと関連して指標として挙げられているところ、2番目の2つ目ですね。『豊かな自然環境が保全されていると思う』と回答した市民の割合』というのやったらこういう、感覚的には漠然としたもので指標をつくっていいのかというのは僕思うんです。例えば今それを、実態を把握するために基礎調査を実施して、で、レッドデータブックの書き直しもされるんですよね、おそらく。

そしたら、通常なら、何年ごとの見直しを考えてはるのか僕は詳しいことは知りませんが、指数の数でやるとか、レッドデータの、宝塚Aランク、Bランク、Cランクですかね。そのAランクの数を減らすとか。そういうふうな形の、見える数字的なもので指標をつくるべきではないかなと思うんですけど。立派なレッドデータブックつくってはると思うので、宝塚市は。

部会長           もう少し直接的な指標が取れるのではないのでしょうかということやっただと思いますので。手間も掛からず頻繁に取れるような指標がもし挙げていただければちよっと挙げていただければと。

委員              それともう1点あるからね。一番最初の人営みと自然がつながっているというのは、僕は前の総論のときにもお話ししたんですけども、水田生態系というのが田んぼと人とのつながりみたいなのが僕は非常に重要やと思うんだ。人とのつながりやねんけども、山と田んぼとのつながりであったりとか、その辺で維持されている生態系っていうのは非常に脆弱なものなので、それをどう守るかみたいなのが最終的な多様性の保護につながるんじゃないかなと僕は思うんですけど、そこら辺はなんとかどこかに入れてほしいなと思うんですけどもね。

部会長           いわゆるかつての私たちの暮らしというのは生活の営みが知らず知らずのうちに環境の保全、生物多様性の保全にもつながっていたはずなんです。そこが私たちの暮らしと自然を守るっていうことが切れちゃった、それがもう一度なんらかの形で私たちの暮らしと環境保全というのがつながらないやろうか、という思いでここは人の営みと自然がつながっているということがあると思うんです。だとすると、例えばですけども4番のところは教育とか活動に特化しているんですけども、ここに環境を配慮した暮らしづくりみたいな話が入ってきて、タイトルも少し、人材だけではなくて暮らしづくりみたいなものが入ってくれば、さっきの委員のお話というのは、ここで受けられるんじゃないかなという気もするんですけど。

委員              水田生態系というものの認知度が非常に低いんですよ。で、田んぼなんて乾田化して効率良く、他のところも出ますけれども、集約化とかそんなんで出ますけど、そやけどそれを田んぼ、じゅくじゅくの田んぼも含めてですけども、それをなくすことによって失われている生き物っていうのはむちゃくちゃ

や多いと思う。それをなんとか目に見える形に出すっていうのが僕は重要ちゃうかなと思うんですね。難しいですけどもね。

市職員      なかなか生活されている方がいらっしゃるし、田畑されている方がいらっしゃるの今おっしゃっている意味はよく分かるんですけども、なかなかそこは難しいかなと思うんですね。特に現場で対応していく段階でいったら、側溝つくったりとか、コンクリートの側溝つくってしまいがちになってしまうんで、どうしても今言われている分だと、昔の土盛りのような側溝をつくっていかないといけないような形になってくるんで。

委員          それは僕、当事者なんです。当事者で、うちの村が玉瀬地区で、去年の夏で事業終わったんですね。結局、国なりの指針の中では生物多様性に配慮した圃場づくりという項目があるにもかかわらず、利便性だけを迫ってしまって、結局、村なりの意見によって押し切られてしまうっていうのが常のことなんで、それはやっぱりもう行政のほうが、これは絶対やらなあかんでとか、ここは絶対守らなあかんでというふうな形で、今度は逆に上からいけへんかったら、これは補助金 97.3%ですか、97.2%か知りませんが、税金をつぎ込んでるねんから、僕はおかしいちゃんかなと思うのよ。逆に残っているところに今度は援助していくという形でも。うちの田んぼの援助にもなりますけど。

委員          委員がおっしゃるとおりだと思うので、そういうのを、例えば環境基本計画の中で論議できるように、総合計画の書きぶりはね。さっき先生がおっしゃったような人との関わり方が、関わりがすごく減ってきてるっていうのを課題として取り上げていくというような、そういうのが、これは総合計画の部分に入っていれば、やるとかやらんとかは別にしても、それをもとに基本計画の中で論議ができますよということだから、やっぱりちょっと簡単すぎるって最初おっしゃったところが。そういう厚みを持ったら、基本計画を論議するときに楽じゃないですかね。総合計画にこれを引いてきてるという。

委員          ただ、その視点を持つ人がおるかおらへんかというのが非常に大きい。

市職員      環境基本計画の中には今言うたように、三面張りっていうのが、県なんかも三面張りした河川を戻していこうという形で、土に戻したりという活動もしてます。そういう中では、環境基本計画の中でその辺もうたってるんですが、今言いましたように経済の関係、それから地域の関係があって、環境のサイドからこうしてほしい、再生エネルギーの話でもそうなんですけども、もっと太陽光を載せてほしいとか、二重、三重サッシにしてほしいとか、外断熱してほしいとか、口いっぱい言うんですが、なかなかそれにはお金が付いてくる話になってきて、最終的にはなかなかそのうちの何本も通らないというのが実態なので、われわれとしては口いっぱい言うていこうという努力はこれからもしていこうとは思いますが、環境基本計画の中では、今言いましたような水

田生態系というような形ではないんだけど、水との関係というのは十分書かせていただいているかなとは思いますが。

部会長

もう少し、それぞれのつながりですね。ここに、各論になってくるからというところもあって、1つ1つが個別に見えちゃうんですね。先ほどの委員のお話っていうのは、それをなんとかつながないと環境とか生態系というのは駄目なんじゃないですかと。そうすると、何かどこかにつながりみたいなものを意識して書ければ頭に入ってくるんじゃないかなと思うんですね。どうしてもパーツ、パーツに見えちゃうんです。それは私からしてもね。だからネットワークとかつながりみたいな話がどっかで一文でもあったらかなり印象は違うのかなと思いますね。

さらに言うと、「協働」という言葉も随所でやっぱり欲しいなという気はします。それぞれの項の中に1つは必ず「協働」という言葉が入ってもいいぐらいのことかなと思うんですね。環境は特に市民の協力がないと進まない。

市職員

言い方は悪いですけど、市だけでやっても何も成果にはならないとは思。

委員

だいたい二の次、三の次になりますよね。市民にしたら。

部会長

はい。ちょっと具体的な話に入ってしまうかもしれませんが、委員が先ほどからおっしゃっていらっしゃる話とも関係するんですけど、例えば徳島県の上勝町の、いろんな形で環境配慮で、世界中から取材が入っていますよね。一番有名なのはゼロ・ウェイストっていうって、ごみの収集しないっていうことで、リサイクル率が80%を超えていますからね。それを町民がみんなで協力してやってるといことと、それからさっきの圃場整備で言うと、一番は八重地という集落があるんですけども、そこは土地改良事業が始まりかけたんですけど、ある方がちょっと待てと。ここが、棚田がなくなったらなんのメリットがあんねんっていう話で、その設計図、変えちゃったんですね。

土地改良はしたんですけど、もともとの棚田ではなくなっちゃったんですけど、でもそれでも何か配慮しながらの設計に変えたことによって、今、上勝町がPRする写真、みんなその八重地の棚田の写真になってるんですね。そうやって、結局環境配慮が売り物になって、金にもなって、観光にも使えるっていうような話が、うまく産業と観光と、そして環境保全がつながっていけば、いろいろ新しいストーリーが書けるん違うかなというふうに思っていますので、そこら辺がそれぞれの各論でぶつ切れになってしまうと、なかなか難しいなというところもあって、そこ、環境サイドも本当はやりたはずなので、何かそれをほかの部署に、あるいは市民の方にアピールできるような書きぶりが1つでも2つでも補強できたらいいんじゃないでしょうか。はい、ほかいかがでしょうか。はい。

委員

5番目の都市美化に関係してくるんですけど、宝塚を美しくする市民運動

の参加人数というのが、例えば令和1年だと6万6,321人となっておりますけど、これは何をカウントしてこの数字になったんですか。

市職員 自治会の参加されてるメンバーの数を。

委員 自治会の会員数ですか。

市職員 はい。そこで、この自治会が参加されたという統計をしています。

委員 自治会でも、ほら、参加する人としらない人はいるし。

市職員 それを言われると。

委員 いやいや、僕が言いたいのは、そういうことであれば、組織人数ですよ、これは。参加人数じゃなくて。

市職員 そうですね。

委員 だから組織人数は自治会の加入率低下に伴って、そういう意味だとしたら、あまり実際に何人かが出たかっていうポイントだと、非会員でも会員でも、みんな、参加した市民はこれだけいますよ、それはカウントしにくいじゃないですか。それで、成果の指標のところにも参加者数というのが、これをアップさせるという、これは現状と課題から言うと、自治会が組織率を上げない限り多くならんということになっちゃいますから。だから指数をやっぱり、例えば参加者数じゃなくて参加団体数とかなんかね。人数だと、たぶん指標にならないんじゃないかと私は思うんですね。

市職員 ありがとうございます。

部会長 ちょっと意味をミスリーディングしてしまう。違う方向に持っていったら、この辺りは先ほどご指摘いただいた内容で再検討いただけると。

市職員 はい、分かりました。

委員 5番のところで、「環境衛生の維持」、(2)のところで、ペットということで、先ほど猫とか犬とかという話なんですけども、例えばペットではない、うちにいっぱい発生してるアライグマであったり、スズメバチのハチっていう、いわゆる敵というか、なんて言うんですか、害獣ですかね。その駆除という部分のことも、中にはここに入れておいていただけるほうがいいのかなというふうには思うんですが、あまりにも各論すぎて書きにくいという。結構やっぱ空き家の多い自治会というか、わりと空き家にアライグマすみ着きますよね。穴開けて。で、繁殖率が高いので、いつか10匹ぐらい出てきはったんです。わなをかけてすると。

やっぱその部分でマンションとかの裏山とかにいっぱい出てきたりして、アライグマ賢いですからなかなか捕まってくらはれへんということもありますので、やっぱそういう、ちょっとアライグマのふんというのがめっちゃ臭くて、どっちかというシカのふんみたいにくるくるなんです。それを子どもたちがちょっと間違えて食べたりすると、一番猛毒、猛毒というたら

あれですけども、なので、やっぱりちょっとその辺の、環境がいい分、そういうアライグマとかの繁殖率が高い。

で、スズメバチもうちにもいっぱいいて、環境の人に電話したら、今回はそれはもう終わった巣ですって言われて、そのまま放置しといてくださいって言われたんですけども、そうしたらまた後ろに隠れて巣作ってはりましたわ。で、また、だから言おうと思ってるんですが、結構スズメバチの被害という部分もやっぱり多いので、その辺り、さっきの駆除とはまたちょっと違うかと思うんですけども、外来種とはまたちょっと違うんですが、その方法をちょっと明記しておくべきなのかなと思うんですけども。

部会長 今日の話、その話を進めるためには、どの施策から突っ込んで考えられますでしょうかという確認をさせてもらったほうがいいと思います。

市職員 アライグマは生物多様性のほうに入ってくるとは思うんですけども、ハチは害虫駆除になってくるので。

委員 3番やろ。

市職員 「環境保全」の3番のところに騒音とかもあるんですけど、その中には今おっしゃったようなハエやカやスズメバチも中入ってまして、結構スズメバチ、ハチは多いんです。苦情として寄せられることっていうのが多くて。こっちのほうで今は対応させてもらってるという形になってます。

アライグマはおっしゃったようにめちやくちや臭いし、天井を抜けてくるみたいな話もあったりとかあって、環境だけではなくて、農政課と一緒にやって。害獣駆除のほうで、どっちかっていったら今、アライグマは対応させてもらってる。ペットで飼ってる人が、初めそうやったかもしれませんが、もうほとんどおられないので、どっちかいうたら害獣駆除のほうで対応、イノシシとかと一緒に感じで。

委員 イノシシ、害獣。

市職員 害獣というか、イノシシ、それか場合によっては。

部会長 今、確認させていただいたのは、例えば48ページの3の3のところに入りますわっていう話ですよ。ところが、書いてあるのが公害防止と環境保全しか書いてないので、じゃあそのスズメバチ駆除とか、そういう健康被害みたいな問題に対して対応しますというのが、一文ここに、もう1つの丸が付いていると、より分かりやすくなるかなということですよ。

委員 害獣という、イノシシとかアライグマって、それは市の駆除するやり方、猟友会に言うてはどうですか。それ、プロシージャーはできてるんですね。スズメバチについては、市の管理地だったら市がやるけど、個人の家の場合には自分でやってくださいと。だから業者紹介しますって。ほかの市では自宅の、自分の家でも市が駆除しますっていうのを、それはたぶん市民の生活の安全を

市が考えて。そういう市もあるけど宝塚市はやってない。そういう現状は、まったく仕組みがないわけじゃなくてやってるんだけど、それが十分かどうかという話。そういう、今おっしゃったようにここに書いてもらえれば、その検討ができる。

市職員 害虫 110 番のところではもうやってもらってますので。

市職員 すいません、今の害虫の話なんですけども、ハチについては今の 5 番目の「都市美化・環境衛生」のところの裏面のほうなんですけど、52 ページの(2)の 2 つ目の丸ですね。「害虫発生 of 未然防止を図ります」という形で対応させてもらってるところなんです。今さっき言いました、アライグマについてはちょっと鳥獣のほうになるので、農政との対応になってくると思います。

部会長 ほか、いかがでしょう。はい、どうぞ。

委員 3 番の「環境保全」のところなんですけどね。1 番の「温室効果ガス排出量の削減」というところなんですけど、これはそもそもあれですかね、宝塚市のということですか。

市職員 市域での温室効果ガスを。

委員 市のっていうことなんですね。

市職員 われわれのほうでも。

委員 は、減少していってると。

市職員 はい。少しずつ減少はしていってるといことです。

委員 その、現状と課題のほうの 1 番の文章なんですけど、「また」のあとなんですけど、再生可能エネルギーが目標に対して現状値が低くと、目標達成困難な状況になってますということが現状ではあるんでしょうけど、ほかのところも見てますと、やっぱりそうは言うもののというところで、地球温暖化の防止に向けてはやっぱりここは大事ですよ。再生可能エネルギーの導入を推進しますというようなところは、なんか諦めたような状況で終わってるのかなというのをすごく感じて。

ほかのところの文章とかを見てても、そういう課題はあるものの、いろんなこういう状況があるので取り組んでいきますというような文章にほとんどがなってるのかなというところもあって、そういう文章に書いたほうが、ちょっと付け加えてもらったりしたほうが前向きな文章としてなるのかなと思うところですね。

部会長 ほか、いかがでしょうか。さまざまご意見差し上げましたけども、内容的にというよりも、少し工夫をして記述をしていただいたほうがより伝わりやすいということだと思いますので、その辺り、また工夫をお願いできればというふうに思います。

あと、これ、後期の基本計画作りのところでなんとかならないかなと私が思

っているのが、どうも環境基本計画の柱の立て方と、この章の柱の立て方がやっぱり違いますよね。各論になってくるとどうしても担当者とか、施策、事業の分野で分かれちゃうので、そうするとたぶん、総合計画とつなごうと思ったときにも、おそらく担当課もしんどくなってるんじゃないかなというふうに思うんですね。

そうするとどこかでそのねじれを解消していくというか、つなげていくような、そんな工夫がないと、いつまでも各論になってくると担当者がはっきりして施策、事業もはっきりするという話になってきたときに、つなぐとか、あるいは協働がせつかく基本計画では柱になってるにもかかわらず、それがいろんなところに分散してしまうとか、うまく書けないかなっていうような、ちょっともやもや感が私には残っているので、今度後期に入ったときに、どういう割り振りで書いたほうがいいのかっていうことも、ちょっと検討しながら5年間進めていただければありがたいなというふうに思います。それじゃあ環境の分野はこれでよろしいでしょうか。

部会長

それでは続いて6章の「観光・産業・文化」に入らせていただきたいと思います。ここ、いろんなものが相互に関連してるところで、どういうつくりで議論をしていただいたらいいのかなど、私も事務局もちょっと悩んでたんですけど、ちょっと飛びますけども、53ページ、1の「観光」と、61ページの5の「文化・国際交流」が、ある意味近いのかなというふうに思いますので、まずこの1の「観光」と、「文化・国際交流」と束ねてやらせていただいて、あとで2、3、4を束ねさせていただければなというふうに思っておりますので。

市職員

(市担当説明)

部会長

ありがとうございます。それでは委員の皆さんからご意見等ございましたら。

委員

すいません、「観光」のところなんですけれども、施策の(2)のところ、2番目「観光情報(資源)の積極的な発信に取り組みます」って書いてらっしゃるんですけども、今、埋もれた観光資源というのが、例えば県道の生瀬線、温泉街の、宝塚温泉からずっと生瀬に沿っていく県道沿いに、丁字ヶ滝っていうところがあるんですけども、地図には載っているんですけども、実はつい最近まで、もう木で覆われちゃって中には入れなかったんですが、実は地元の自治会の方がそこを切り開いて、看板まで丁字ヶ滝ってような看板までしてて、観光地を愛する会みたいなのを立ち上げて、そういうことをやっぱり発信されているんですね。

すごく今、きれいに自分たちで本当に整備されて、中に本当に滝がちゃんと見えるようになってるんです。昔は本当にそんな丁字ヶ滝ってというのはすごく立派な観光資源だったみたいで、皆さん訪れた方が楽しまれてたってところなんです。そういう観光資源を、今、市民の方が本当に自分たちのま

ちの魅力が発信されている方がたくさんいらっしゃるの、やはりさつき先生もおっしゃっていたように、やっぱり協働っていう文字が、全然このページにも見当たらないので、やっぱり市民と一緒に発信していくっていう、何かそういう文章というか、そういうのが含まれたらいいかなと思います。

部会長           今もやられていることもたくさんあると思うので、「協働」とか「市民と共に」という文章を、一文入れるだけでイメージが違うし、市民側も、いやいや、市役所がやってくださいみたいな、私たちも一緒にやるんだよっていう意識づけになるかなと。またご検討いただければと。

市職員           市民ボランティアの方とかいろいろ活躍はいただいているんですけども、おっしゃっている地元の方が、一番地元のことをご存じですから、そういうネットワークというのは大事にしていきたい。

委員             みたい・みせたいネットワークっていうのも、こういうのも立ち上がって、皆さんここにどんどん自分たちで撮った景観のビデオとか、そういうのを YouTube とかで上げていきましょうというような、今、ちょっと活動もみんな広めていこうとされているので、すごく本当に市民の方が、自分たちのまちの魅力をということ、頑張る。

市職員           ちょっと観光というところから外れますけれども、委員はよくご存じですけど、塔の町自治会のご縁で、小林聖心はなかなか地元の方でも足が踏み入れられなくなっている。そこで、地元の方のご協力をいただきながら、地元の方から、校内に行ってもらって、それを広く市民にオープンにしていたこともあります。そういったことを考えていきたいと思います。

部会長           ありがとうございます。ほかいかがでしょうか。はい、どうぞ。

委員             「観光」のほうなんですけれども、「観光」の3のところ、施策、それから指標のほうで持続可能な、で、観光振興とまとめてくださってるんですけども、同じく3の、現状のほうでせつかく地域内で人と金が循環する仕組みっていうことをうたっているわけなので、ちょっと変な例えなんですけれども、たまたまワイドショーか何かを見ていたときに、浅草の近所で、まさにコロナの中で新しく開店したチベットかどこかご出身の人が開いたおすし屋さんが、苦境にあえいでいるんだけど。見られました。

委員             見ました。

委員             苦境にあえいでいるけども、なんとか首つないでいけてるのは来ない観光客じゃなくて、地元のリピーターが、本当に常連さんが来てくれて、支えてくれて、赤字だけでもなんとかやってるんですみたいな話があったんですね。

だからやっぱり宝塚の人が宝塚のことをもっと知って、観光っていう形、違う形はあると思うんですけども、中でもっと楽しむような、住んでいるわれわれが楽しめる、そういう場づくり、環境整備っていったところの要素を、こ

ちらの施策のほうでも、ちょっとそういう文言を入れていただけたらいいかなと思うんですね。

やっぱりこの観光とか文化、芸術は、一番とはいいませんが、やっぱりこのコロナの状況が一番影響が大きいんじゃないかなと思いますし、これからまたそれは議論していくことになると思うんですけども、せっかく地域内という言葉があるので、そういう要素を施策のほうにも反映させていただけたらなと思うんですけども、いかがでしょうか。

市職員 　　ちょっと話題になりますけれども、今、「Go To キャンペーン」がいろいろ話題になって、ご近所から遠方へっていうのがこれからの先になると思うんですが、先日、宝塚ホテルの人とお会いすることがありまして、やっぱり歌劇も休んでいますし、当初のスタートはなかなか伸びているとは言いがたい状況でした。

ただ、特需というか、「Go To」は、市内の方でも泊まっていたら「Go To」になるので、ご近所の方が泊まってこられているとか、意外と飲食のほうは予算どおりいってますということをおっしゃってました。今だからこそできるということもあると思いますし、そういった部分もちょっとPRしていきながら、歌劇さんもなかなか敷居は高いとは思うんですけども、この時期だからこそ、利用いただければと思っています。

部会長 　　そういう話が、導ける話が、(3) 番の施策の4つ目の丸ぐらいにもあったらいいんじゃないですかといったのが先ほどの委員のご指摘ですよ。

委員 　　はい。

部会長 　　いわゆるマイクロツーリズムのような、地域の方々が地域を巡って、お金も落としてもらえらるような、それが結局持続可能な観光資源ということにつながるので、左側に書いてあるんですけども、右側の施策のほうにも入れといてくださいというお願いだと思いますので。無理なくいけるんじゃないかなと思います。

委員 　　今の(2)に関連するんですけど、積極的な発信に取り組む。もう1つ大事なのは、資源を発掘するとか、見直すとか、その利用方法、ハードとソフトの分をもう一遍きちっと整理し直して、みんなが行きたくなるようなところをつくった上で、整理した上で発信するっていうのも、そこら辺が入ってないなっていう気がして。

今、明智光秀でやってる道谷の、長谷のほうにお城が、城跡があって、明智光秀の娘が住んで、結構、悲劇があるんですね。あれが今年いいタイミングだなと思うんだけど、あれは猪名川町はめちゃくちゃあれを利用して発信しています。登山道がここにあるとかね。歴史がこうだと。キャラクターついたり。宝塚市は何もやってないのでね。あそこにせっかく城跡があって、何も

ない。道もつくってないし。

そういう物語が、つまらないか知らんけど、もう一遍見直すところから始めたほうがね。今あるものだけでなんとか発信するんじゃなくて、埋もれているものをもう一度見直す、その仕組みがあるでしょうけど、それを生かす方法なんかを市と住民とでやれるところに整備していかないと、いつまでも歌劇とお寺じゃ限界ですね。もっと隠れたものがいっぱいあるはずだから、という気がします。

部会長 (1) 番のところの、1 番の最初のタイトルがそれなんですよね。「地域資源の磨き上げと掘り起こし」。でも、下を見るとそれがうまく生きてないんじゃないのっていうご指摘かと思います。もう少し上のタイトルをストレートにいけるような書きぶりが、下にもあったほうがいいですよということで。

市職員 先ほどの委員のちょっと意に反するかもしれませんが、(1) の3 番目の丸なんか、今、委員がおっしゃった、まさにいろいろな人が協働してコンテンツ開発をしたり、掘り起こしと磨き上げの中のベースとして、考え方としては、委員がおっしゃったように、(1) でまず入れているつもりっていうか、理念としては入れ込んであるつもりで、おっしゃることはもうそのとおりです。

部会長 と思って私も読んでみたんですけど、実は「コンテンツ」の説明がそうになってないんです。だから、これちょっと蛇足になってないかなとか思うんですね。

市職員 用語解説を入れると、用語の意味が狭くなり、いろんな意味で、ちょっと横文字使っているときもあったので、幅広く、ちょっと意味合いとして取りたいなっていうときはあるにはあったので、用語解説をもう少し幅広く書かせてもらったらいいかんかとは思いますが。

部会長 そうですね。それで、この説明文を工夫すれば、今の話は入れられると思いますので。

委員 やっぱり総合計画、行政が利用とするというのは、市民が見て分かるかっていう問題があるからね。市民が、知らない人が読んだときに、なるほどやるんだなっていうのが分かるような表現にしてほしいですね。

市職員 観光で合意形成というのが表に出てきますが、先ほどおっしゃった地元でつくったからたくさん来てほしいって言って、たくさん来ていいのっていう、オーバーツーリズムみたいな話にもなるので、情報発信は、ぜひ、したいのですが、地域の方との協働であったり、合意形成、ご理解というのは、受け入れ側で絶対要りますので、むちゃくちゃ来ても、むちゃくちゃ来だしたら、もう来て要らんっていてももうそれ手遅れで、来だしたらもう止めどなく来ますので、その辺はちょっと難しいところは。他市の状況を見ているとあるにはあります。

委員 ただやっぱりすごく埋もれているものが、今、おっしゃったように、本当に

埋もれた資源というのがいっぱい、本当に、私たちの校区でもいっぱいあるんですね。滝だけでも本当に、この何カ月かで。

委員 結構してはりますわ、それは。実際ちゃんと。

委員 だから、そういうことをやっぱり、もうちょっと掘り起こして。

委員 いや、だからさっきおっしゃってた、たぶんそこをPRし過ぎるとあまりにも人が来すぎてっていう。前、本当、『めざましテレビ』でダリヤ園を、放送されたんですね。そんならもうテレビの効果でどーっと来て、ダリヤ園が荒れ果てたっていう。それで花が1つもないやんって。そんならもうみんなリピーターにならない。やっぱりそれで全然トイレもない、どこに車も、止めるところもないっていう、すごいやっぱり受け入れ体制と、そこをしないと、やっぱり観光は、掘り起こしはみんなすごいやっちはるんですけれども、それをどう導いて情報発信していくか。

ただ、まち歩きだけやったら、まだいいんですけれども、コアメンバーで。それを大々的に出すか、出せへんかっていうの、すごい、私、別に、やっぱり観光を、そういうパンフレットをつくっているときのことを考えると、やっぱりちょっと難しい。需要と供給のバランスを考えなあかんかっていう。

市職員 その辺の思いが、ちょっと委員がおっしゃった、(3)とかの、「持続可能な観光振興」というのは、ハードとソフト両方でちょっと要るので、卵と鶏と一緒に育っていく環境が要りますので、持続可能な観光というのはほどほどに来てほしいというわけにはいかないんで、なかなか難しいところです。

委員 具体論からすれば、これからはもうコロナの問題があるから、もう今までのパターンの観光の組み立てができませんよね。新しい形を考えないと。

市職員 でも、集合されて、山登られるとか廃線敷に行かれるときに、ご近所から、「マスクしてないけどなんとかしてくれとかいう」電話もあります。マナーというか、やっぱり運動される方はマスクを外されると思うんですけれども、集まってる時間、ご近所にしてみたらやっぱりちょっと違和感、抵抗があるんでしょうね。

部会長 その辺りで言うと、あれですよ。だから難しいなと思うのは、指標が全て数になってますよね。質を測ったほうが本当はそういうところはどう取りあえるんですけどね。その辺りが難しいなっていう気がしますね。

委員 ちょっといいですか。

部会長 どうぞ。

委員 令和になったし、ちょうど10年計画を新たに作るし、コロナの件もあるので、いい機会だなという意味で、観光客数についてより実態に即した把握ができないものでしょうか。

委員 この辺は最初のワークショップで、相当熱のこもった論議がされました。ま

たそれを見る機会がありましたら、ぜひ読んでもらって、かなり細かい話がもうけんけんがくがく出ていました。面白かったです。

部会長            なかなか入り込み客数って調査するのが難しいんでね。定義によっていろいろ変わってしまいますが、ちょっと先ほどの委員のお話を受けて、何を目指していくんだらうか、それを実態として押さえるためにはどういう指標を押しえていけばいいのかということをもう一度全体的にブラッシュアップというか、考えていただければというご意見かと思えますけど。はい、どうぞ。

委員              今回の来場者数の話とも関連するんですけども、62の施策の、(1)の指標のところなんですけども、文化芸術センターができちゃったわけで、これをぜひ有効活用していくというので、とても大事なものだと思うので、これをまず来場者数、これは測っていきたいと思うんですけども、ただもちろんあれが宝塚市の文化芸術のいろんな意味での核になってこれから引っ張っていく、推進していく大事なものだとは思いますが、それだけじゃなくてやっぱり従来の、例えば宝塚市文化財団が指定管理をしているいろんな施設のいろんな取組、ワークショップ、コンサート、芸術祭等々ですね、そういうものをずっとこれまでも蓄積されていってるはずですし、そこは変な計算はしてないと思うので、だからそういうところとの、一番上の丸にも書いてあるように、「文化芸術関係施設の有機的連携(協働)を推進する」ということで、財団がやってきたこと、それから新しい指定管理の文化芸術センター、それも有効に機能して、総体として宝塚の文化芸術は上がって行って、市民もみんな楽しめるっていう状況になっていくことだろうと思うので、ここも文化芸術センター、もちろんありきではあると思いますが、そこに加えて既存の文化施設の利用率っていうのは下にありますが、「来場者数」ということ言うんであれば、ここにもそういうことも加えておいていただいたらなと思います。

市職員            事業の数となると、今年なら特にそうですけど、事業によってばらつきが出ますので、ちょっとそれはどうかと1つ疑問に思っています。それと、一番上に文化芸術センターの、これはあえて「来場者数」としたのは、そういう意味合いもございまして、展示施設もありますし公園もあります。そこにお越しになる方をカウントする。仕方はいろいろあるとは思いますが、あえてそこは「利用者数」ということじゃなくて、「来場者数」という形で表現をさせていただきます。

それと、センターができまして、手塚の記念館は直営ですけども、創造館は財団がされています。今までも文化芸術の推進母体として市も一緒に続けてきましたし、やはり財団と一緒にやっていくのが基本的にはこれからも事業としては変わらないと思います。今もセンターの運営、新しい施設の運営にも

積極的に関わっていただいていますので、文化芸術センターのほうの指標を新しく作らせていただいたということにしております。

部会長　私も、文化芸術センターは立ち上げのときから、ずっとお手伝いしていますけど、そういうコンセプトがちゃんと生きる形でカウントしていただいているということが、もう少しみんなに理解してもらったほうがいいと思うんですよね。で、建物の中に入るのではなくて、あそこを例えば、南から北へ、北から南へ抜け道としても使ってほしいというようなコンセプトもありましたよね。そうすると、そういう歩いてる人たちもカウントするんだと。公園に来た人もカウントする。その人たちがやがては建物の中へ入ってくれるような形のいざないみたいなものをあそこではもくろんでいるって言うことでは、先ほどのご説明っていうのは私はそのコンセプトが分かってるが故に、なるほどなと、すんと落ちるんですけど、そこをもう少し丁寧に伝えていただけるようにしていただければ、より説得力が付いてくると思うんですよ。

市職員　分かりました。ありがとうございます。

委員　関学の子どものたちの通学路はあそこを通るんじゃないんですか。

市職員　はい、今、現に通られています。

委員　もう通ってますよね、あの公園の中をね。じゃあカウントされてる。通学路になってる。

部会長　そうやね。われわれも通学路に使ってほしいなということで、どうやってあそこ、ちゃんと通れるようにするかっていうデザインを一生懸命みんなで考えましたので。

委員　でも安全ですよ。道路側よりは、絶対にあの公園のほうか。

市職員　そうですね、今までは細い市道沿いの、一段高いところですけど、歩道を歩いてましたけど、手塚の南口から来る子どもさん、宝塚の駅から来る子どもさん、手塚の玄関まで行ってしまえば、あとはもう学校までは危険にはさらされず、公園の庭園の中を歩いていただいて、マンションと市道の間の歩道を歩いていただける。つい、いつかな、学校を再開して1カ月後ぐらいのときから、6月、7月ぐらいかな、通学路として使っていただいています。

部会長　ちょっとかなり具体的な話になりますが、あそこは高低差がいろいろあるんでね、土地も建物も高低差があるんで、どのレベルでどうつないでいくかっていうのが、かなり設計者と打ち合わせをして、調整はさせてもらったところなんですよ。そういうものがちゃんと測れるっていう意味では、来場数っていうのは適切かなと私は思いますけど。

市職員　(資料説明)

部会長　ありがとうございます。何かご意見ございますでしょうか。いかがでしょうか。

委員 「農業」のところなんですけど、1番目の後継者の確保は十分じゃないという、農家数が減少というのと、例えば集落営農と組織数の関係というのはどうなんです。集落営農をやったら農家数は減少するのは当然ですよ。集落営農を1とカウントするんかとなると、知らないですけども。

市職員 ちょっと数のことは確認したいとは思いますが、この集落営農というのが持続可能な農業に役立つのではないかというのは、ちょっと農政課で議論しているところですし、計画の中でも入れようとしているところなので、重要なキーワードかなというぐらひは認識しておりますけど。

部会長 その辺りが適切に分かるような数値、グラフがいいんじゃないでしょうかというご指摘かと思うんですよ。そういう意味でいくと、国の農業施策も最近強い農業という言い方をしてますよね。みんなを支援していくのではなくて、やはり頑張れる人、頑張ろうとしている人、あるいは新しい方々の就農支援をしたり、あるいはさっきの集落営農もそうですけど、個人の営農ではなくて、組織の営農に切り替えていこうっていう考え方ですよ。その辺りの考え方が現状と課題の(1)番のところにもう少し出てきてもいいのかなと思うんですよ。

で、私がちょっと一番具体的に気になっているのは、次世代の担い手っていうことで書いてますけども、これはいわゆる世代継承みたいな話に見えちゃうので、そうじゃなくて新しい方で農業に参入したい人たちも含めた新しい担い手みたいな話に変えていただけたほうが、より国の施策の方向とも合ってくるのかなと思うので、ちょっとこの辺りの書きぶりと、それを的確に表す数値みたいなものを工夫をしていただければいいのかなと思います。はい、どうぞ。

委員 すいません、植木産業なんかも農業に入るんですか。

部会長 そうですね。

市職員 入ります。

委員 結構、自治体の、田んぼとかそういうのもあれですけど、この山本のほうの植木産業の面積が減ってるっていう話は、これは戸数と人数ですけど、農地の面積も確かに相当減ってると思うんで、それも1つの指標になるのかなと。もう1つ話をすると、後継者とか農家数が減ったっていうそれだけじゃなくて、植木のニーズがもう世の中変わってる。新しい団地なんかでは見越しの松なんて売れんと。山の中の雑木をぼんと庭先に植えると。だから、木も従来の高い木は売れないし、家の剪定なんかは仕事がないというような社会状況の変化で、植木産業の状況が変わってきてるんですよ。それでやむを得ず、もう生産しても意味ないということを耳にすることがあるんですけど、そこら辺の農業って田んぼみたいな話だけに見えるんですけど、そういう植木産業

っていうのも宝塚の特徴なんで、どっかにそういう、現状と課題って、あってもいいんじゃないのかなと私は思いますけども、いかがですか。

市職員

ちょっと、施策3本、立てさせていただいていますが、花卉植木ってというのは宝塚の地場産業ですので、柱1本を増やすかどうか、だいぶ内部で議論しましたけども、花卉植木の、今おっしゃったように農業に入るんですかっていうのは、われわれは当然、農業に入るという前提の中で、この農業って書いているところに今おっしゃった宝塚の特徴として西谷の農業、南部の都市農園、それと地場産業である花卉植木、それを全て包含して、柱で書いている農業というのに含んでいるというふうな結論に至りまして、今回ちょっと総計の中ではさせていただきました。

農振計画の中では、かなりばらして書いているところがありますので、先ほどおっしゃった集落営農の話であったり、花卉植木のことであったり、担い手不足というのは、土地を手放すことと、ちょっと同じ話になりますので、その辺もちょっと課題として認識した上で、計画というのは作りかけてはおりません。

部会長

ほか、いかがでしょうか。

委員

「農業」の現状と課題の3、今さっきの環境のほうとのせめぎ合いという話なんですけど、「農地の有する多面的機能」っていう、「多面的機能」っていうのをもうちょっと明確に欄外でも結構なんで、しっかり書いていただけないかなと。なぜかという、多面的機能というふうに、圃場整備とかの部分で出てきたら、必ず溝とかの強靱化というふうなほうばかりに、保水力であるとか、そればかりにいつてしまうんで、今さっき言った生物多様性の部分も多面的機能、癒やしとかそんなも含めてですけども、それも含まれてるんで、それを明記するっていうのはすごい大事ちゃうかなと僕は思います。多面的機能の説明でいいと思います。

部会長

ほか、いかがでしょうか。

委員

もう1点あるんですけど、感染症の関係が2カ所、記述があるんですけど、前回もお話したかもしれませんが、感染症の事象については、もっとこの基本的計画の頭のほうで論議をするか、盛り込んだらたぶんここだけじゃなくて、全部の項目に感染症の問題は、観光も含めて出てくると思うんで、ちょっとその辺をこれから頭で押さえるのか、各論の中に入れるのかっていうのも一遍論議をし直したほうがいいんじゃないかなと思ってます。ここに書いていることはそのとおりだから、内容的には問題ないんですけど、どこに書くかという部分で。

部会長

おそらく、先ほど市職員から、政策推進課からのお願いっていう話が出てきたんですけど、たぶん全ての分野でお願いされてると思うんですよ。コロナ対

策をどのような形でそれぞれの分野を受け止められますかっていう。で、先ほどの委員のお話で言うと、まずは大きなところで、その総論のところできっかり書いておいて、あとはそれぞれのところできっかりと書けるところは書いてもらうというような今、組み立てだと思っんですよね。ここだけがちょっと特記されてるような印象がありますけども、逆にほかのところも書けるところはきっかり書いてよっていうふうに持っていくのか、その辺りはまた先ほどお話しいただいたように全体会の中でちょっと議論を、われわれもさせてもらえればなと思います。ほか、いかがでしょう。はい、どうぞ。

委員

さっきのやっぱり2番の「商工業」のやつを活性化というか、売り上げの増が結局、4の「雇用・労働環境」にそのままミックスされるというか、やはり宝塚においていろんな、今年度、年末までいろんな事業をやっていきはるといふか、私も一生懸命、ロコミで、PayPay、みんな登録してる。とあって、10万買うたら2万5,000円が、国から補助が出るんやよとあって言うても、年寄りに言うたらやっぱりなかなかアプリが入れれないとか、ややこしいとか、そういうの、9月の単月やからねとあって言うても、なかなかあれやという。

本当それをうまくやっぱりPRするということと、それでまた今度、10月1日から10月10日までプレミアム・すみれ商品券が、また応募が始まる。ほんならそれも5万円商品券買うたら6万円相当の商品券が戻ってきて、それが12月末まで使える。やっぱりそれが事業者にとってのメリットといふか、宝塚市のほうに、宝塚の事業者さんを応援するキャンペーンが今年度ずっと続いているのに、市民の方にも、ね、利用してもらおうということをやったり、私は一生懸命PRしているんですが。

何が言いたいかといふと、やはり本当に宝塚の大手の事業者さんはそれこそちょっと分からないですが、ちっちゃいところについてはもう本当、家賃がかなり圧迫してて、なかなかその部分で家賃補助の国の助成を受けようと思っても、それだけで、もういつまで続けれるか分からないところもありますし、それでさっきおっしゃっていた有効求人倍率っていうところで1.0を切るっていうたら、本当バブルがはじけたぐらいのときの雇用体制やと思うので、それよりもっと逼迫してるかと思っしますので、やはり雇用を生まな結局お金の消費が生まれない、それになると宝塚のほうにお金が落ちないっていう、すごく負のスパイラルが今、起きているっていうところで、やっぱりなんとなくもう、私ら住民も含めた意識改革、会社の意識改革もそうなんですけど、住んでらっしゃる方の意識改革もしていかなあかんっていうふうにすごく私自身は最近、生活しててそう思っます。この、何か、内容には盛り込めないんですけども。

部会長

いえ、私は盛り込んでほしいなと思っんですね。というのは、商業振興で商

業者の方と、特に元気な商業者の方といろんところで頑張るんですけど、5年か10年かっていうことで、だんだん商業者の方が力尽きてくるんですね。それはなんでかという、自分は頑張っているんだけどそれが消費行動につながらない。そうするとやっぱり商業者を元気づけるだけじゃなくて、一方で消費者の意識変えていただかないとお金は落ちないんですよ。

そう考えたら、この15ページの「消費生活」の中にも、やっぱり地元で買い物しましょうとか、あなたの消費行動が地域の経済を支えているんですみたいな話が、そこにもやっぱり書いといてほしいし、一方で先ほどの2番の「商工業」のところも、やっぱり消費行動を促すような施策と連携していくっていう話は、これは盛り込んでおいてほしいんですね。それが連動してこそ初めてお金が循環していくっていうことで。やはり一番の鍵は、消費行動を担っている市民が本当は鍵握っているんです、いう辺りをもっとアピールしてほしいんですよ。そこ、ちょっと今のところに書き込んでほしいなと思います。

市職員

古いキャッチですけど、お買い物は市内でという、古いキャッチコピーが今まさに、そのとおりです。自分のところのまちだけよかったらいいというわけじゃないんですけど、市民の方はどこのまちにもいらっしゃいますので、地元の店を支えるっていう意識でお買い物していただく、まさに今そのタイミングと思って発信はしていきたいなと思っています。

部会長

ちょっと、消費行動じゃないんですけど、川西市で今、公共交通の利用を促進するっていうことをやっているんですけど、川西能勢口から川西池田に行くデッキがありますよね。あそこにバナーが付いているんですけど、なんて書いてあるかっていうと、「あなたの行動が未来を決める」って書いてあるんですよ。今のあなたの交通行動がバスとかを存続させるかどうかを決めているんだよ。だから今は車で運転できるかもしれないけど、今の行動が大事なんですって呼び掛けがあるんですね。それと同じだと思うんですよ。

特に郊外のニュータウンの中でどんどん身近な、歩いて行けるお店がなくなっているっていうのは、それは自分たちの消費行動が起こしている部分もあるので、そういうことも含めて、やっぱり消費行動を、あなたの未来をつくっていくんだよっていうような呼び掛けっていうのは、ぜひともいろんところでやってほしいなと思いますけどね。それがちょっと促せるような書きぶりが商工業なんかでもあるといいかなというふうに思います。

委員

ありがとうございます。まとめていただいて。

部会長

いえいえ。

委員

いつも途中までしか言えない。

部会長

あとはいかがでしょうか。ちょっと私のほうから2点お願いしたいんですけど、4番の「雇用・労働環境」の中なんですけどね。ちょっと私が今、個人

的に思っているのが、雇われるっていう働き方ではなくて、自分で業をつくっていく、仕事をつくっていくっていう人たちが増えていくはずだし、それが増えないと、たぶん雇われるっていうだけではやっぱり限界がきているのかなと思うんですね。「商工業」のところには起業を書いているんですけど、こういう「雇用・労働環境」のところももう少し、雇われるだけじゃなくて、あなたが自分で仕事をつくり出すんだよっていうニュアンスももう少し書けないかなというふうに思っています。それがここ10年の1つの方向性として重要だと思っていますので、そこら辺の書きぶりをもう少し充実させてほしいなと思うのが1点ですね。

それともう1つが、2番のところのワーク・ライフ・バランスが、最近ワーク・ライフ・インテグレーションに進化していますよね。だからワークとライフは別々にあるんじゃないじゃなくて、ワークとライフが融合するっていう働き方、暮らし方のほうが本当はいいんじゃないのっていうことですよ。そういうようなところ、ワーク・ライフ・インテグレーションまで、この10年で宝塚の施策も進められるのであれば、もう一歩突っ込んでほしいなという気がするんですけど。

市職員 労働の審議会でそこまで話は至っておりませんので、ちょっと次回投げ掛けてみたいと思います。ありがとうございます。

部会長 もう1つは脱線話で私事になりますけども、この前うちの学生が、大学の先生ってブラックですよって言ったんですよ。で、今日も私、ここで働いてるでしょう。で、土日もどっか行ってますでしょう。休みなんてないですよんっていう話なんですよ。で、私が切り返したのは、それは義務としてやっているんじゃないで、それは自分のやりことをやっているの、いくら労働時間が長くなったとしても、それはストレスに感じてないから、それをブラックって言われるとちょっと違うでっていう話をしたんですよ。それがまさしくワークとライフのインテグレーションなんですよ。

そういう新しい働き方、生き方みたいなものが出てくるし、それが自分で業を起こしていくとか、仕事をつくっていくっていう意味でワーク・ライフ・インテグレーションにもつながってくるんじゃないかっていう思いがあるんですね。その辺り、仕事は、金稼ぐための仕事と生きがいとしての暮らしっていうのがしばらくは分離していましたが、それが重なっていくという意味での新しい生き方・働き方・暮らし方みたいなものがどんどん出てきたらいいなというような思いも込めて、ワーク・ライフ・バランスじゃなくてインテグレーションっていうところまで突っ込んでほしいなっていうのが個人的な思いでもあるんですね。

委員 それ、だから、いわゆる副業っていうのも、別に金もうけだけじゃなくて、

結局トータルの労働時間になったら 10 時間、下手したら 20 時間とか働いてるのもおるんやから、副業の勧めなんかみたいなのもあってもいいん違うかな。

部会長 特にそれが、サラリーマン都市として成長してきた宝塚の暮らし方、働き方の根本論を考え直してほしいということにもつながるのかなというふうに思いますよね。

委員 副業の宝塚っていうのは。

市職員 ちょっと先ほど部会長に言っていただきましたが、商工業の中ではかなり起業とか創業、新しい分野への進出であったり、そのような、創造都市って謳っていきますので、その辺はちょっと突っ込んで計画にも総計にも入れさせていただいているつもりですが労働・雇用っていうとやっぱり雇う側と雇われる側の課題解決みたいな、古くからの伝統を重んじて書いていますので、そこまでちょっと、新しい働き方の定着は入れさせていただいたんですけど、そこにどこまで含むかっていうようなことになるのかなと。副業であったりテレワークであったり、先ほど部会長がおっしゃった新しい、起業であったり、そういったことが、新しい働き方って、コロナもありましたので、どこまで含むかなっていうふうな感じかなと思います。

部会長 このタイトルが「労働環境」ですからね。労働環境は誰かが整えてくれるんじゃないで、自分が整えていくんだっていうような、そういう発想もこれから必要かなと思うんですね。だから、委員さんなんか自分で自分の労働環境をつくり出して生きてきた人ですから。

委員 生きてきた。サラリーマン生活、OL 生活。やっぱり本当、雇用形態がたぶんこれから多様化していくんじゃないかなとすごい感じます。大阪で打ち合わせしても本当、大手のところはデスクシェアリングされてて、すてきなオフィスやなと私は思っちゃうんですけども、やっぱりそういう意味での、すごく、働き方形態が、もう本当、リモートもあるし、いろんな形でやっていって、で、逆にその部分で給与体系も変わっていくっていう、なんか本当、組織の中でも変わっていくし、自分自身も、そしたらそっちのほうはええわというふうに、転職して、自分、独立している人もいてはります。やっぱりこの機にいろいろ考える機会が増えているような気がしますね、本当。私はそれを感じますね。宝塚の人たちはどう思われるか分からないです。なんかやっぱりちょっと閉鎖的な感じするから。ちょっと、すいません。

部会長 うちの学生なんかを見てても、やっぱり元気な学生は就活しませんもんね。もう 1 年生、2 年生のころから起業を考えていますから。そういう時代ですよ、若い子たちっていうのは。ほか、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。かなりいろんなことを申し上げましたので、また、受け止められる範囲で結構

です。

市職員 　　それでよろしいでしょうか。

部会長 　　はい。

市職員 　　それではありがとうございます。

部会長 　　市職員がずっとおられるとは限りませんので、あとの方に引き継ぎやすい内容で。

市職員 　　ありがとうございます。ではご意見として持って帰ります。ありがとうございます。

市職員 　　ありがとうございます。

部会長 　　では、どうもありがとうございました。

事務局 　　先生、委員がもし何かあれば。

委員 　　あ、委員。

部会長 　　最後、振ります。委員、無理にとはいいませんけども、何か今までの話の中でご意見等が何かあればお願いします。ミュートかかっています。委員、何かありますでしょうか。

委員 　　すいません、聞こえてました。

部会長 　　はい。

委員 　　すいません。働き方改革の話が出て、住んでいる場所がたぶんこれから職場になるっていうところが増えてくると思うので、こういった委員会とかでも Zoom とかで参加できる環境が整うと、より住みやすくなる人が多くなるのかなっていうのと、職場は、住んでいるところが職場になると、その近くでやっぱり買い物をしたりとか、いろんな、2次的なものが生まれると思うので、そういうのを進めていただけたらうれしいなと思いました。

部会長 　　ありがとうございます。私、ちょっといろんなところでお話しするときのネタで、今年の7月1日かな。Google の新聞広告の話をさせてもらうんですね。小さなビジネスがまちをつくる、やったかな。小さなビジネスをやっている人たちがまちを面白くするし、まちを元気にしていくんだよっていうことを Google 自ら言ってくださっていますので、宝塚もそうやってみんなで盛り上げていけるような、そんなまちにぜひともしていただきたいなというふうに期待しております。どうもありがとうございました。

　　それでは、今日は時間になりましたけれども、これで本日の審議は終了させていただきます。その他で、まずは委員の皆さんからありますでしょうか。よろしいでしょうか。それでは事務局からその他についてご説明いただければと思います。よろしくお願ひいたします。

### 3 その他

事務局 次回、10月の13日になります。1カ月ぐらい先ですけども。18時半から全体会のほうを開催させていただきます。会場、ちょっと今、調整中にしておりますので、またあらためて連絡させていただきます。次回の全体会につきましては、本日いただいた各論についてまた庁内調整をしてからお示しさせていただきます。あと序論、それから基本構想を今、中間答申いただいておりますけども、そこも修正かけるところを調整する、見ていく。それから基本計画の総論ですね。先ほどコロナの話もありましたけども、そこでどうされていくかっていう総論の部分についてご審議いただく予定ですので、資料等はまたあらためて送らせていただきます。